

まず  
本、あり▽。

-?を!に変える本との出会いを見つけるマガジン-  
///Vol.34///

出産の歴史

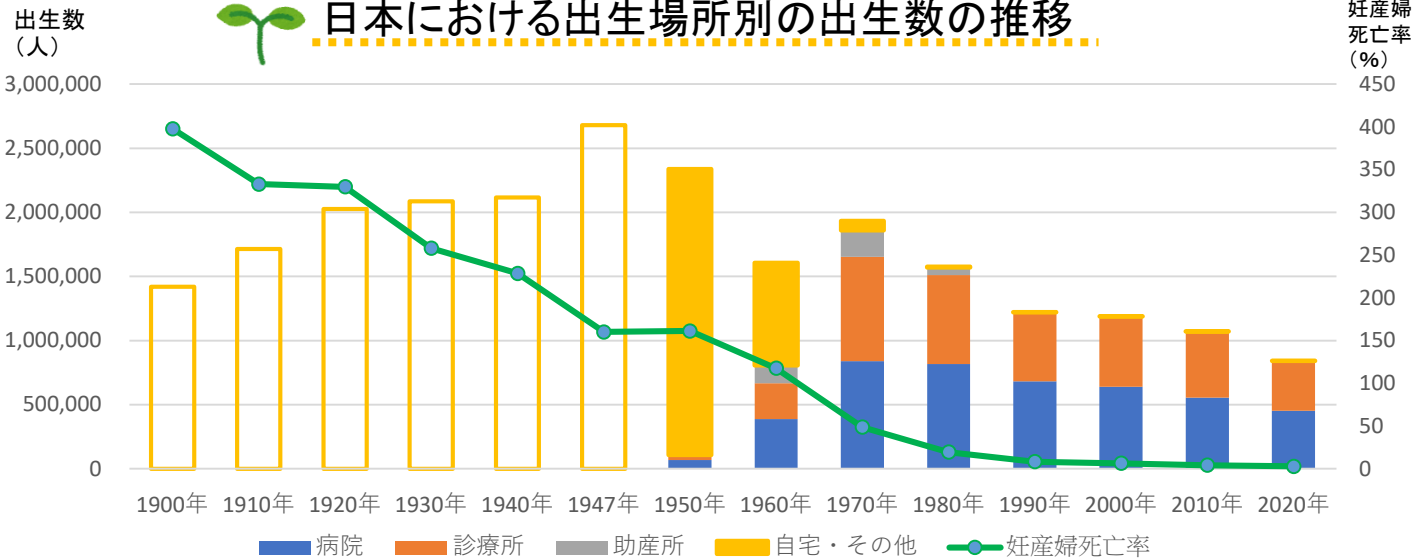


# 出産の場所

出産は、女性にとって大きなライフイベントです。  
1950年代までは自宅出産が主流でしたが、1960年代以降は病院や診療所での出産が急増し、現在はほぼ施設出産となっています。



## 日本における出生場所別の出生数の推移



※1947年まで出生場所別の統計なし 出典:厚生労働省『人口動態統計』



第二次大戦後の1947～1949年はベビーブームで助産婦は各家庭を飛び回り、大忙しだったそうだよ。

その後は家族計画が普及して出生数が減り、妊産婦の死亡率も下がったんだね。



# 助産師

明治時代に、助産に関する制度が法律によって定められました。  
現在の助産師は、明治時代に「産婆」という名称で職業として確立し、1948年に「助産婦」、2002年に「助産師」となりました。



## 日本の助産に関する法令の歴史

- 1868(明治元)年 「産婆取締に関する太政官布達」  
産婆に関する規定がみられる最初の法令
- 1874(明治7)年 「医制」(東京・大阪・京都に発布)  
医師と産婆の業務が明確に
- 1899(明治32)年 「産婆規則」「産婆名簿登録規則」「産婆試験規則」公布  
産婆の免許制度が確立
- 1948(昭和23)年 「保健婦助産婦看護婦法」公布  
産婆→助産婦に名称が変更される
- 2002(平成14)年 「保健師助産師看護師法」に改正  
助産婦→助産師に名称が変更される

※参考:日本助産師会Webサイト  
「助産師とは 法律と定義」  
<https://www.midwife.or.jp/midwife/about.html>

## 戦後の家族計画運動

戦後の第1次ベビーブームによって、日本の出生数は飛躍的に増えました。一方で望まない妊娠・中絶や貧困世帯を減らし、国民の安定した生活を目指すため、1950～60年代にかけて、受胎調節普及事業・家族計画運動が普及しました。



### 家族計画運動の動き

- 1948(昭和23)年 「優生保護法」公布  
人工妊娠中絶の事実上合法化
- 1952(昭和27)年 受胎調節実施指導員の認定講習始まる  
助産婦・保健婦・看護婦などが対象
- 1955(昭和30)年 厚生省「受胎調節普及運動実施要綱」

戦時下では出産奨励政策に動員された助産師や保健師が、戦後は受胎調節指導に関わったんだね。



## 自然なお産を

医療の発達により、周産期死亡率や妊産婦死亡率は減りましたが、陣痛促進剤による事故の増加や、1970年代のウーマン・リブ運動の「自分の体は自分のもの」という考え方の影響もあって、ラマーズ法や水中出産等、様々な出産方法も広まり、「産まされる」のではなく、「主体的に出産方法を選択」する女性たちが増えました。

### 『出産白書：3361人の出産アンケートより 1979年3月』

国際婦人年大阪連絡会 1979

病院等での施設出産が大半を占めるようになった1970年代後半、陣痛誘発剤への疑問、出産費用の格差など、「自分たちの手で出産の実態を明らかにしよう」と、「出産白書」づくりがスタートしました。

### 『お産の学校：私たちが創った三森ラマーズ法』

お産の学校編集委員会編 BOC出版部 1980



東京都立川市で三森助産院を開業していた三森孔子院長が1975年6月にラマーズ法を取り入れて三森ラマーズ法を作り、自然出産を推進しました。

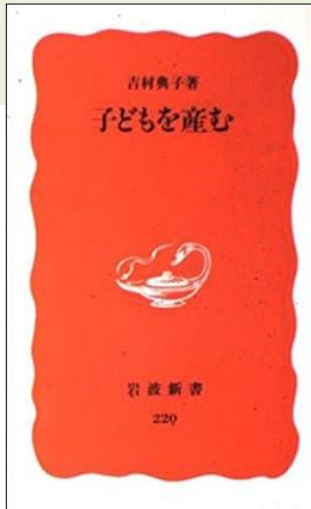
三森助産院で出産した女性たちの記録です。

#### ラマーズ法

フランスの産科医フェルナンド・ラマーズが提唱。呼吸法を使った出産方法



出産の歴史・習俗に関する資料を見てみよう。

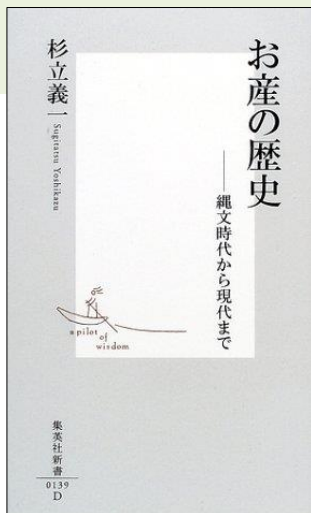


### 『子どもを産む』

吉村典子著 岩波書店 1992

三度のお産を経験した著者が、離島や山村での出産体験者へのフィールドワーク、月経・妊娠の仕組みや出産習俗、不妊治療などの医療テクノロジーによる出産、明治時代に西洋医学が取り入れられてからの価値観の変化など、出産についてあらゆる視野から書いている本です。

出産の全体像を知り、産む人にとって「いいお産」とは何かを考えることの大切さを説いています。



### 『お産の歴史：縄文時代から現代まで』

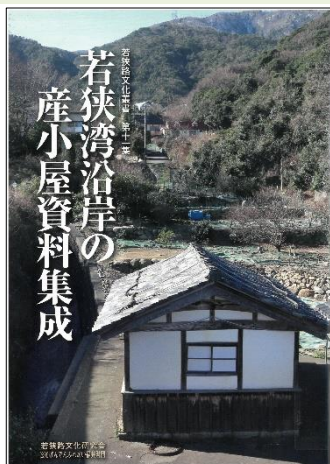
杉立義一著 集英社新書 2002

日本における出産の通史を、産科医だった著者がまとめた本です。太古の類人猿から現代の自然出産まで、様々な文献や史料から、日本人がどのように出産と関わってきたのかを知ることができます。

奈良時代に東洋医学、江戸時代に西洋医学がもたらされた影響による出産をとりまく環境の変化も書かれており、日本の医学史も学べます。

### 『若狭湾沿岸の産小屋資料集成』

山本編集室編 若狭路文化研究会・げんでんふれあい福井財団 2014



福井県敦賀市・小浜市を含む若狭地方の沿岸部には、女性が出産・月経時に一定期間滞在した産小屋(産屋)・月小屋(月経小屋)が保存され、「若狭の産小屋習俗」として国の選択無形民俗文化財に指定されています。

この本は、現地の産小屋習俗についての論考や調査報告書、自治体史、当時の介助者や産屋で出産を経験した女性への聞き取りなどを収録しています。





助産師の仕事と、助産師が関わった  
家族計画について知りたいな。



## 『助産師と産む：病院でも、助産院でも、自宅でも』

河合蘭著 岩波書店 2007

助産師の仕事と様々な出産方法について知ることができます。計画分娩はせず、フリースタイルや自宅出産など、ひとりひとりに合った方法を探る大切さと、助産院と医療施設の連携についても説いています。助産師が不足している現状で生じている課題についても書かれています。



## 『「家族計画」への道：近代日本の生殖をめぐる政治』

萩野美穂著 岩波書店 2008

明治時代以降の生殖をめぐる歴史を、政策、医術、国際的文脈、当時の人々の声などから丹念に描き出しています。子どもを何人もつか、生殖を計画的に行う責任、中絶よりも避妊を選択するといった現代的な考え方が、近代日本でどのような変化を経て現在に至るのかをたどります。

## 『近現代日本の家族形成と出生児数：子どもの数を決めてきたものは何か』

石崎昇子著 明石書店 2015

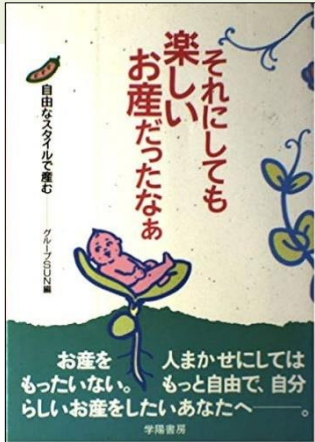


日本の人口政策・家族政策において、産む子どもの数を決定してきた要因について、江戸時代から現代までを「都市型」「都市近郊農村型」「東北農村型」に分けて調査・研究しています。養育方法や家族観の差、出産の医療化から家族計画を経た計画出産への流れ、現代の少子化と労働問題についても考察しています。



主体的に「産む」方法を選択した女性たちの本を読んでみよう。

『それにしても楽しいお産だったなあ：自由なスタイルで産む』  
グループSUN編 学陽書房 1993



助産師の介助を受けて、助産院や自宅で自然なお産を行った女性たちの手記集です。自分の望む出産をするために考えたことや悩んだこと、家族や助産師との話し合いなど、妊娠～産後までの体験が臨場感をもって綴られています。後半には妻の出産に立ち会った夫たち、助産師の手記も掲載されています。

『ニュー・アクティブ・バース』(改訂版)

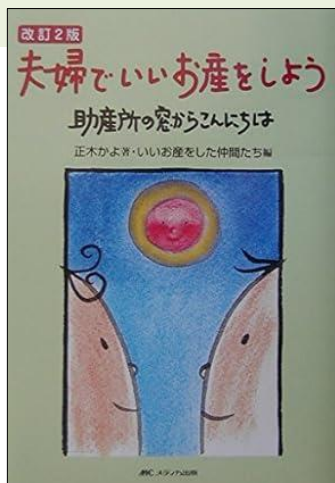
ジャネット・バラスカス著；佐藤由美子, きくちさかえ訳 現代書館 1998



1970年代後半に日本や世界で起きたアクティブ・バース（自然なお産）運動。女性が自分の意志と決断で、自発的に、自然に出産するための方法や注意点について、妊娠・出産における体の仕組み、妊娠中の体操、呼吸、マッサージ、出産から産後の体操まで、妊娠～産後までの過ごし方が順を追って書かれています。家庭分娩と病院分娩の比較、水中出産の流れについても説明しています。

『夫婦でいいお産をしよう：助産所の窓からこんにちは』(改訂2版)

正木かよ著；いいお産をした仲間たち編 メディカ出版 2003



妊娠期の健康管理や生活習慣、ラマーズ出産を基本とした出産方法について、先輩ママたちの体験記を交えて書かれています。夫へ向けた章「オトコの読むページ」では、父親の在り方についてのアドバイスがあり、夫婦で妊娠・出産を迎えて親として育ててほしいと述べています。子どもへの性教育についても書かれています。

## 女性・ジェンダー関連情報を調べるのに最適!



### 国立女性教育会館 文献情報データベース

[https://winet2.nwec.go.jp/bunken/opac\\_search/](https://winet2.nwec.go.jp/bunken/opac_search/)



### 文献情報データベースでできること

- ① 女性教育情報センターの豊富な所蔵資料が検索できます  
図書・地方行政資料15万冊、雑誌4,200タイトル、  
新聞記事60万件、和雑誌記事8万件
- ② 資料には、登録時に関連キーワードが付与されているため、  
幅広い、効率的な検索ができます

### 新着資料アラートサービス

<https://www.nwec.go.jp/database/new.html>



関心のある「キーワード」や「著者」などをあらかじめ登録すると、その条件にあった女性教育情報センターの新着資料をEメールでお知らせ!

### 図書の貸出、文献複写サービス



お近くの図書館や男女共同参画センター等を通じて、図書を貸出しています。(送料はご負担いただきます)  
埼玉県内在住・通学・通勤の方は、埼玉県内公共図書館を通じて図書を送料無料で貸出できます。



文献複写Web申込サービスを利用申請いただくと、インターネットでお申込、ご自宅へ資料をお届けします(有料:白黒1枚35円、カラー1枚80円+送料)。

## 関連する女性教育情報センターテーマ展示

# 「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ ～妊娠・出産における女性の健康～」

2023年4月～6月、妊娠・出産と「性と生殖に関する健康と権利」に関する資料を展示したので、こちらもぜひご覧ください！

<https://www.nwec.go.jp/event/center/health.html>



## 女性アーカイブセンター企画展示「お産の歴史展」

NWEC本館1階女性アーカイブセンター展示室にて9月23日(月)まで開催中だよ。ぜひ見に来てね。



出産や助産の歴史に関する資料を展示しています。

同時開催：  
「100人のお産展」

<https://www.nwec.go.jp/event/archivecenter/tenji2023osan.html>



# 出産の歴史

女性教育情報センターテーマ展示（4～6月）

<https://www.nwec.go.jp/event/center/shussan.html>



編集・発行：独立行政法人国立女性教育会館 情報課

〒355-0292

埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL:0493-62-6195

URL:<https://www.nwec.go.jp/facility/center.html>



発行：2024年4月



本、あり☑。は国立女性教育会館リポジトリからダウンロードできます。

<https://nwec.repo.nii.ac.jp/record/2000136/files/honarivol34.pdf>

